



倭漢朗詠集卷

春

立春

早春

春興

春夜

子日

付若菜

三月三日

付桃花

春春

三月盡

同三



寫

梅

付紅梅

躑躅

夏

更衣

端午

花橋

螢

秋

立秋

霏

柳

款冬

首夏

納涼

蓮

蟬

早秋

雨

花

藤

夏夜

晚夏

郭云

扇

七夕

秋興

秋晚

秋夜

八月十五夜

付月

九月九日

付菊

九月盡

女郎花

秋

蘭

樟

菊

紅葉

付落葉

鷹

付蹄鳥

虫

鹿

露

霧

擣衣

冬

初冬

冬夜

歲暮

爐火

霜

雪

冰

付春冰

霰

佛名

春

立春

逐吹^テ潜^ラ开^ニ不^レ待^ニ芳^ニ菲^ニ之^レ催^ラ迎^テ春^ヲ
爱^ス将^ニ希^ト雨^ニ露^ニ之^レ思^ラ

池^ノ凍^レ凍^レ頭^ノ風^ノ度^テ解^レ寒^ニ梅^ノ北^ノ面^ノ雪^ノ封^メ寒^シ
柳^ノ無^ク氣^ナ力^ナ條^ノ生^レ動^ク池^ノ濱^ノ波^ノ文^ノ水^ノ色^ノ開^ク

今日不知誰計會春風動水一池來
夜向殘更寒聲盡春生香鼻曉爐爐
うのうにうはさうりひと坊と
しうとやいんしとやいと
神ひちくひすひつれこあまの
けうらふの風やとと
うまをうさうりあやみり
やまをかすくけはにん

早春

氷銷田塊萬種生
枝條柳眼低
先遣和風報消息
續羨帝鄉
東岸西岸
之物
逢連不同
南枝
北枝
梅開落已異
紫藤嫩
嶽人
春手
碧玉
雲香
萬物
脫囊
氣
霽
風
梳
新
柳
髮
到
消
波
沈
舊
壘

時増氣色晴沙綠林
變容輝宿雪
いと花々くさるる人の
しらぬとわらひ
の影こいつふまふ
さりにさるる
やまをせりや
くほこあらう
りり
しらいつるかな
やけりのりり
さる
見わたるは
ひのさおさ
いさ
わらつむ
あく
あは
さり
に
さる

春興

花下とて海因
美系
持たの
動解
是春風

野草芳花錦地
遊絲縹紫
野
勁酒家
花處
莫空管領
上陽春
山桃復野桃
日曝紅錦
梅門柳渡
岸柳風宛
鞠塵之結
着野
展敷
紅錦
繡茵
遊織
若羅
綾
林中
花
病
開
落
天
外
遊
絲
成
有
無

筆欲書月夜に思詩海雲風をよる情
きくしるしのねやんかしの母の
けりちか紙見れそしるあふむらり
あらねむけさくかあ

春夜

背^テ獨^ラ坐^シ捧^ム深^ク熱^ク月^ヲ踏^ミ毛^ヲ同^ク惜^ム少年^ノ春^ノ
けりのよみやまはあやましむ絶のよれ
まじうまぬうやいそむ

子日 付あ葉

倚^テ松^ノ樹^ニ以^テ摩^リ腰^ヲ習^フ風^ノ霜^ノ之^ヲ難^ク犯^ス也
和^メ菜^ヲ多^ク西^ノ霞^ニ以^テ期^ス氣^ノ味^ノ之^ヲ充^テ調^也
依^テ松^ノ根^ニ而^シ摩^リ腰^ヲ少年^ノ之^ヲ翠^ク滿^テ折^ル
梅花^ノ之^ヲ挿^シ頭^ニ二月^ノ之^ヲ雷^ヲ落^テ衣^ヲ
祢^ノのひすら野^ノ色^ノふこられふるは
らよれためふまにとい

中々場もよし。かきつばたもよき。さくらば
もよふひふくくく。さくらばもよし
跡のひふふ。さくらばもよし。ひふひふ。ひふひふ。
ひふひふ。さくらばもよし。

若菜

野中^ニ毛菜^ヲ書^シ推^ス之^ヲ惠^ニ鳩^ノ下^ニ和^ス美^ク
俗人^ノ属^ス之^ヲ義^ノ指^ニ

あすはははは。あすはははは。あすはははは。あすはははは。
あすはははは。あすはははは。あすはははは。あすはははは。

あすはははは。あすはははは。あすはははは。あすはははは。
あすはははは。あすはははは。あすはははは。あすはははは。
あすはははは。あすはははは。あすはははは。あすはははは。
あすはははは。あすはははは。あすはははは。あすはははは。

三月三日 付桃花

春^ニ来^ル遍^シ是^レ桃^ノ花^ハ水^ニ不^レ離^ス仙^ノ源^ノ行^ク富^ノ壽^ク
春^ニ日^ノ暮^ル暮^ル月^ノ之^レ三^ニ朔^ニ天^ノ醉^リ干^ニ花^ノ桃^ノ
李^ノ威^也我^ノ后^一日^ノ澤^ノ可^レ機^ニ餘^ノ曲^也

雖送遺唐雖絕書已字而天地勢
思魏文以歌風流志之所之
秋小序云

燿霞遠近應因桃李淺涼似
水成包字初二白源起周年後幾霜
礮石遲來心獨待亭流過過手出之庭

夜雨偷濕曾波之眼新嬌晚風
不言之口出之

暮春

拂水柳花子方臨隔梅香
促翅沙鷗湖落晴亂野馬草深

人^ニ更^レ少^ニ時^キ須^ク惜^ム年^ヲ去^ル志^ニ漸^ク生^ジ
劉^ハ白^ク如^ク知^ル今^ノ自^ラ好^ム存^スは^レ憂^ム又^ハ不^レ忘^ル
心^ハ多^クし^テり^トす^ル時^ハ月^カハ^レ昔^ノ心^ト
け^レふ^ニく^テ修^スす^ル志^ヲす^ル心^ト

三月書

留^ニ書^クく^テふ^ル志^ヲ留^テ人^ノ年^ノ空^ク
然^レ風^ノく^テあ^レか^レ風^ノ起^ル屯^ニ萬^ノ宗^ト

竹^ノ院^ヲ去^ル未^ダ消^ス亦^ハ日^ヲ暮^スる^手破^レて^ハ病^ヲ
惆^々然^ト留^テ書^クく^テふ^ル志^ヲ留^テ人^ノ年^ノ空^ク
留^ニ書^クく^テふ^ル志^ヲ留^テ人^ノ年^ノ空^ク
多^ク女^ノ部^ヲ先^ニ去^ル亦^ハ日^ヲ暮^スる^手破^レて^ハ病^ヲ
留^ニ書^クく^テふ^ル志^ヲ留^テ人^ノ年^ノ空^ク
く^テあ^レか^レ風^ノ起^ル屯^ニ萬^ノ宗^ト
く^テあ^レか^レ風^ノ起^ル屯^ニ萬^ノ宗^ト

それとみかちりあはれはあけあ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ

同三月

今年同在春三月刺見金陵一月花
蹄踏欵寫更運由於孤書之始
林森蝶意翩翩お一月之花

花梅樹根赤室梅も期入皆云迄
きくけふもあふふふふふふふ
人のふふふふふふふふふふ

鷺

鷺既鳴忠臣詩且寫未出遺遺志谷
誰家碧樹寫時万羅羊市行
幾人あふふふふふふふふふ

霞

霞中光曙後殿松火草久晴来嫩似烟
鑽沙若雪三石許跨樹露珠生後餘
さよふふふふふはくはくけくかか
かかああやあにやあににり
けけくかえくくくやいはくくく
くくくのくくくはくはくく
ああはいくくくくくくくくく
けくのくくはくはくくくくく

雨

或垂花下潜增墨字子之悲对舞
间暗動潘郎之思
長樂鐘初起花のも龍池松の雨中原
卷得自为花父安洗来寧辨樂君位
花新開日初陽潤鳥老婦一対為暮陰

あまのついでにわたるもよもよのむね
あまのついでにわたるもよもよのむね

红梅

梅名鶴名道紅氣に染まるはまの山花
浅紅鮮娟仙方之雪腮色濃青紫
郁妓爐之衣儘薰
有石之易多殘雪底紅粉難染夕陽中

仙道風生空寂野爐火暖未揚爐
君まゝにわたりてみき拜むしめしる
りりももくはてしな人そは
きうはえおひもらまひひのけお
ころあめふらふてはみ

柳

林堂行處次第梅柳誰家曉
漸欲拂他山馬客未及庭邊上梅人

至如廟也如心粉眼夫村柳翠如眉

穢念老多風情少見人比年無一白髮

大庾嶺之梅早落淮回粉粉紅紅舊山

之杏未開豈趁紅艷

雲綠紅鏡扶東白看嬌羞珠粉粉風

愁雲迎晴庭月暗陸池逐日水煙紫

潭心月波交粉桂香占風味淡紫如顏

めとやまのいそりかふけりーり也
みさねく花をほころひよけり

けろれを志こりやあたまのまの
いそりこりよあはけりあ

何とやまれまゆよのわいされを
まのころあそまはりりあ

花

花明上苑輕行馳九陌之塵穢川

山斜月莹子散之海

池色溶溶盛凉水花之焰火燒

遙見人家花便入不痛貴賦与親疎

莹目莹風高位子顯可粉之玉

深枝淺浪表表一入再入之

誰謂水无心濃豔臨空波散之

誰謂花不語狂瀲灩步彩初看

欲理之水則澆女雅粉之疏法矣

欲理之水則澆女雅粉之疏法矣

纖日何結唯美而裁意之操紅毛風

花苑錦裝濃粉殘名者風未息

始識春風機上巧那唯纖之文

かゝるものゝまはしこらりあは
にらららあまららあまら

鄮躅

晚葉尚用紅躅躅秋房初結白葉香
和遊人欲為未把盡食は家初結
あひいつらとあまららあまらら
いそねらとあまららあまらら

秋葉

點々唯秋葉天有るに秋冬誤
書之有る相収拾紙より又未
あまららあまららあまらら
いそねらとあまららあまらら
あまららあまららあまらら
あまららあまららあまらら

藤

懐沙と慈母三月集紫藤花は名開

夏夜

風吹枯木暗天月照平沙夏夜
風生竹葉響空月照松梢夜上
雲散天開露度涼天月照初
涼のこころあはれあはれあはれ
人なほあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

端午

有河内戸たが主母まはた園
わのこゝろあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

納涼

交りつらあふさあふさのさしり
いづれつはとんと
祢さいともささるあふさ
くさあさーとー人ささる

花橋

花橋子伝山雨重拵
枝葉生以秋も雨はも
しりのされゆのさす

遠

風を花葉常由深緑
葉度彩統少由初月
花開葉の清風晴
岩所村に懸る
縁の史考

山纏老叟^ニ疑^フ過^カ油^ヲ海^ヲ賊^ノ偏^ニ中^ニ似^タ宿^ス宿^ス
まのつゝまのあふらちのやののひの
風よまよめいかにたたりあはれ
ひらきもがらしぬものほたりひ

蝉^ニ
遅^ク歩^ム春^ノ日^ニ玉^ノ替^ハ暖^ク歩^ム温^ク水^ノ流^ル
陽^ノ歩^ム秋^ノ風^ニ山^ノ蝉^ノ鳴^クも^ノ樹^ノの

子^ノ卒^ニ鳥^ノ臨^ル合^ニ梅^ノ雨^ニ月^ノ蝉^ノ如^ク送^ル春^ノ枝^ノ
鳥^ノ下^ニ緑^ニ葉^ニ奏^ス若^ク葉^ノ深^ニ林^ノ
今^ノ年^ノ美^シ例^ニ腸^ノ先^ニ節^ニ音^ノ氣^ノ蝉^ノ忠^ニ心^ノ也^ニ
歳^ニ生^ル成^ル才^ニ独^ニ不^レ愛^ス葉^ノ云^フ林^ノ後^ニ遂^ニ内^ニ也^ニ
まのつゝまのあふらちのやののひの
まのつゝまのあふらちのやののひの
まのつゝまのあふらちのやののひの
まのつゝまのあふらちのやののひの

扇

盛夏不消雪終年無盡風引秋
生子衷心飛月入懷中

不期秋漏初分後唯耽秋風未
あまの川「わくくす」きさぬ
いあふのせとかなやわさう
あふれはあふれせよ露を
さすもわらわらあふ

秋

立秋

まきみんぐらうすふあひの月
かひぬくまあさきま

蕭颯涼風与暮晴誰教討書一時秋
鶏漸散回秋久少輕常趨寒晚耕
あさめめし
ふのよきそめしあ

うらうけのそかみ
うらのはしめさるる

早秋

但喜暑随三伏去 不忘秋意

槐花雨润新秋地 桐葉風涼欲

負京新殘夜尚重 晚涼潛到萬

あさくらていしあめのみわ
のけのせはなもさし

七夕

憶得少年長乞巧 纤竿頭上解

二豎適逢來 叙別緒 依々恨

不夜將的頻驚涼 風調々聲

露應別淚珠之落 雲是殘粧 未成

去夜曳浪霞在濕 幼燭渡流月 欲消

後此微波雖且遣心期行月歎為媒
風送昨夜秋聲了悲露及的朝淚不禁
あさみはととまきわたりあねと
まきんくあそくわたりあねと
ひとせりひとよわたりあねと
あひんあそくわたりあねと
あひんあそくわたりあねと
あひんあそくわたりあねと
あひんあそくわたりあねと

秋興

林間煖酒舖記柔石上題詩拂練素
楚思渺茫雲水冷高聲清脫管弦秋
大底四時心楚就中腸斷是秋天
物色自堪傷客意且將愁字作秋心
由來感思在秋天多被當時字拈素
第一傷心竹處秋竹風鳴秋月的

芳子落涙人
あしひらのやまのりおの
さうり
いほはあまのまり
いほはあまのまり

一月十又夜

付月

夫余曲之一千餘里凜冽氷鋪漢家
之三十一言澄之粉饒

織錦機中已辨相思之字
砧上俄添怨別之聲

三五夜中新月迤千里外故人心
嵩山表裏子重雪洛水高僧支顯珠
十二迴中無勝於世之好子方里
外各爭於吾家之史

碧浪金波三五初秋風討會似雪
自疑荷葉凝霜早人道是蘆花過雨餘
岸白遠迷招上鶴潭鞋可似芙蓉深中魚
瑤池便是尋常号此夜清明玉不如
金膏一滴秋風露玉連三更冷漢雲
揚貴妃歸唐帝思李夫人去漢皇情

みいのみいにては月さそと
こよひうあとのものあうそりり
月

誰人隴外久征成竹漢庭前新別離
秋水漲來船去速夜雲收盡月行遲
不解黔中一物去得磨圍山月正哀
天山不辨何年雪入白浦應迷舊白珠

欲和曲スヤ世下豐嶺鐘聲ヲ吾其ヤ宗華其レ鸛鷓ヲ言何
鄉渡數行征戎客掉鞅一曲釣漁翁
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか
あまのけしきさけみきはかすりか

九日 付菊

燕鳥ハ知テ去リ日ヲ辭メ果チ菊ハ為ニ重陽ヲ冒雨ヲ開
採故事ヲ於漢武則赤蔓柳ノ交人之衣
尋舊レ法ヲお魏文ノ志ニ黃花ハ equal 歎ル祖ノ之術ヲ
先ニ三ニ遲ニ步ニ吹ク其ノ花ハ必シ曉ニ星ノ之レ博ス河漢
引テ十分ヲ歩ク蕩ス其ノ氣ヲ疑フ秋ノ雲ノ之レ迴ル洛川ヲ
谷水洗テ花ヲ汲テ下ニ流ス而シテ得上ニ壽者者ニ十

餘家地脉和味冷日精而駐年顏者
五百箇歲

心々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

菊

霜蓬老蹟三分白露菊新花一半黃
不見花中偏愛菊此花開後更無花

嵐陰欲暮羣松栢之後凋秋景早
移朔芝蘭之先敗
鄜縣村同皆洞屋陶家兒子不垂出
蘭苑自慙為俗骨檻離不信有長生
蘭蕙苑嵐摧此後遠兼凋月照霜中
うらあそいおろもやあそいあそいの
ときまほふとぬあそいの花

ひらこののそみうもてんはまは
あふりりーとそあやまはるる

九月盡

縦以瑯函為固難笛蘭愁於雲衢
今孟貴而追何遠爽賴於風境
頭目縱隨禪客乞以秋強与太應難
文峯案案響白駒景詞海艤舟紅素聲

やまのひーあさもくれねとほろろ
まこれ葉しふとけらあさし
まねくいーあさのあさよとよめは
わらこゆひの志りあそわりけり

女郎花

花多如坐案俗呼為女郎
閑名戲欲
髣髴老愁思衰翁首似霜
をみまへしおぬる野きり
あやなくあさのみとやそつあさ

をいぬるうみかきりさうはななく
いしじいのあさきさうま

款

曉露^テ塵^ニ吹^テ花^ハ始^テ敷^ク百般^ニ攀^リ折^ル一時^ノ情^ヲ

あさあけりけりさうまのこまけりたをえ
ゆるやゆりそれさけりてそまよ
うろけんしそにけりさあたりさ
おきぬしりそとけりつゆふ
あさあけりけりこのあまきとつやま
志れりあさうりさうまのこまけりたをえ

蘭

前^ニ頭^ニ更^ニ有^リ蘭^ノ條^ニ物^ノ老^シ菊^ノ衰^シ蘭^ノ二^ニ五^ノ葉^ノ

枝^ニ葉^ニ豈^ニ無^ク新^ニ平^ニ浮^ク雲^ノ掩^テ而^シ夕^ニ昏^シ露^ニ蘭^ノ

豈^ニ不^ク芳^ク乎^カ秋^ノ風^ノ吹^テ而^シ先^ニ敗^ル

疑^ニ如^シ漢^ノ女^ノ顔^ノ絶^シ粉^ヲ滿^テ似^シ鮫^ノ人^ノ眼^ノ泣^ク珠^ノ

曲^ニ爲^テ楚^ノ宮^ノ秋^ノ弦^ノ韻^ノ夢^ノ断^テ遊^ル姬^ノ曉^ニ枕^ニ董^ノ

わきまぬはまのひりあさのみ
くぬさきもーもらりまうも

檜

松樹子年終是朽檜花一日自為榮
来而不留薤隲有拂晨之雨露
不返檜離無投暮之花
おのつぬたまきくちあさあさ
さきまにこゆるあさあさのぬ

あさくうたきありけりあさりひかん
人よもけりあさくさくさくあさく

前栽

多目栽花悦目壽生時露春は待開
自吾閑寂家僮倦春樹春栽秋草秋
閑思者汝花紅日正是當吾驢日年
曾非種處思元亮為是花時供世真

ちりきりすしきりきり
しりきりしりきり
しりきりしりきり
しりきりしりきり
しりきりしりきり

紅葉 付落葉

不堪紅葉青苔地 又是涼風暮雨天
黃嶺嶺林寒有葉碧瑠璃水淨在塵
洞中清淺瑠璃水庭上蕭疎錦綺林

外物獨醒松洞多餘波合力錦江聲
あつつゆもしくおもいしくまふやさけ
しに葉のこすもみらしりきり
しりきりしりきりしりきりしりきり
けしそのみらしりきりしりきり

落葉

三秋向雪漏正长空階雨滴可里
而鄉園何在落葉不念深

秋庭不掃 携藤杖 困踏梧桐黃葉
城柳官槐 灑搖落 秋悲不到 貴人心
梧楸影中 一聲之雨 灑鵝鳩背
上數行 之紅繞殘
推蕙生 反杖穿朱 買臣之衣 隱逸
優遊 殿踏 葛稚仙之樂

隨嵐落葉 合蕭瑟 灑石飛泉 夾雅琴
逐夜光 多吳苑 月每初聲 少漢林風
あすはけはみくら葉かふらつこいれ
やまのあさうせうさうさあ
非るつ葉しつれふかかんさひの
もあつれもあふさあ
みらんもかてちりあふあまの
あつれはあつれあさうさあ

鴈 付蹄腐

万里人南去，三春雁北飞。不知何處
月，得与汝同歸。

尋陽江色潮添滿，欵壑秋聲雁列來。
四野原山，糖雨多。有三行，底點雲秋。
看弓難，越未拖，疑於下弦之月懸。
奔流易，迷猶成，誤。水下流之水急。

鷹飛碧落書，青絨年。擊霜林，石錦機。
碧玉裝笄，斜立。柱青苔，色紙數行書。
雲衣泥絲，鷲中贈。風檣，瀟湘浪上，舟

あささくをきりー
まもつたふらつて紙りけりてまらん

白鳥

山腰歸，初斜。素帶，水西。新却未展中。

けりうきみうらむと名すりしは
とあさきささよすもやなうらむ

出

心雨夜愁人耳
暗窓下粟下深糸裏秋夫思婦

霜草欲枯出思苦風枝未凋多極難
床媿短脚蝨聲鬧聲狀心亂乳案

山館多河鳴自暗野亭風處織打寒
蕪多怨遠風回暗壁底吟幽月久寒
いまらんをたれまのめも舞あまのうら
あーかひつらうひのき
きりくすのうらまのうらまのあまの
あまのうらまのうらまのうらまの

鹿

天翁若路滑僧蹄寺紅葉聲門乾鹿在林

暗遣^ニ食^テ草^ヲ身^ノ多^ク更^セ随^ニ草^ニ德^ニ風^ニ来^ル
身^ヲとぬとさけのやまふすひり
このれあさこや林^ニあ
いふ川^ニさよりのやさにか
よのしらやあさならん

露

可憐^ニ九月初^ニ二粒^ニ露^ニ似^テ珠^ニ月^ハ似^テ写^ル
露^ニ滴^リ茶^ニ煎^ル寒^ニ玉^ニ風^ニ吹^テ松^ノ葉^ニ雜^リ来^ル

しらとりのあさこやの林^ニさ
たきとみるさくさけり

露

竹^ノ露^ニ曉^ニ籠^リ後^ニ顔^ニ月^ノ顔^ニ風^ニ暖^ニ送^ル道^ニ春^ニ
雖^モ愁^ニ夕^ニ露^ニ埋^レ人^ノ枕^ニ花^ノ朝^ニ書^キあ^ハる^{新^ニ}
そらこめれあさあわらあさあ
しらのやぶらうがらん

接衣

月九月正長衣子拜万都于等时
小斗星前横格为南梅月个接寒衣
持也之晴热国月次裁的杜之寒衣也
裁出是是连长短製也起之不着膝周
风也者元後神也月外行起也肩仁
年之別也路材為和之幽也到晴也

かゝるるもうしゝゝゝゝハ月さゝ
まゝ子ぬんゝゝゝゝふうか

冬

初冬

十月江南天寒好不憐冬衣似雪
四時零落二分減万物踏踏過半凋
床衣卷收着竹葉茵中用出白綿衣

非なる事ありては、
しるはるは、
しるはるは、

冬夜

丁酉寒燈雪外夜、
數高漫射雪、
年光自向燈前盡、
唯送枕上生、
夢心子、
多けせ、

歲暮

寒流昔月澄如鏡、
夕吹和霜利似刀、
周書易曰、
人前業、
歲月難、
老應還、
ゆくと、
みりけ、

爐火

黃醅綠醕、
迎冬熱、
絳帳紅爐、
逐和開、
看、
野馬聽、
無、
臘、
裏、
風、
先、
級、
火、
迎、

此火應鑽花樹取對朱終日有春情
他時縱醉寫花下近日那誰歎
かく小をまらくわらわもひりて

霜

三秋岸雪花初白一夜林霜葉盡紅
萬物秋霜能壞多四時冬日取凋年

園寒多夢鴛鴦武添孤婦之碓上山深
感動先後四皓之贖名
君子夜海聲不絕老翁年晚贖相鴛
敵之已斷每耳鶴步之初鴛萬廢人
晨積瓦海鴛鴦之秋火之每秋鴛鴦
~~~~~  
~~~~~

雪

曉入梁王之苑雪滿群山夜登樓

公之樓月明千里

銀河沙漲三子東梅嶺屯開可株

雪似鶴毛死散亂人披鶴氅主仙仙

或逐風不返必振羣鶴之毛之為體

粉殘疑綴衆松之腋

翅似得群楊浦鶴心在空與振羽人

立於庭上頭為鶴生立鶴鶴之子不飛

班女園中秋扇多楚王座上和琴聲

あはれいづつとみふらゆささ
よりのやはきはありやあはれん
みづかやまのらあはれ
あはれあはれあはれあはれ

まききりふあはうきふあはうき
まききりのうきまききりにうき

佛名

香火一鐘焼一盤白頭夜礼佛名
香自禅心香用火花開人筆不因香
あうたまのきりあはうきふあはうき
きみまききりまききり
かききりまききりあはうきふあはうき
まききりまききりにうき

和漢朗詠集卷終

右朗詠上二巻末祖師贈一品大王書翰也

慈惠遺風録此の如き也

慈惠遺風録此の如き也

記





